

滋賀森林インストラクター会

会報・第19号

2016年12月26日



ノササゲの豆果_莢だけでなく種子も鮮やかな紫（栗東市金勝山 2016.11.18）

目次

1. 緑の少年団 指導者研修会	梶谷 栄治 佐々木 建雄	2～4 頁
2. 「山を活かす、山を守る、 山に暮らす交流会2016」	下川 茂	4～5 頁
3. 今年度の定例研修会の概要と総括	小西 民人	6～10 頁
4. 県外研修報告ー長野県梅池高原ー	高橋 優	11～14 頁
5. 新会員の紹介		15 頁

～緑の少年団指導者研修会～

滋賀県緑化推進会から委託を受け、「緑の少年団指導者研修会」の滋賀会会員が講師を務めるのは今年度で3年目となります。昨年同様、樹木観察と木工クラフトを行うプログラムで研修会を実施しました。県内各地区で計7回の緑の少年団指導者研修会が開催され、以下の滋賀会会員を講師として派遣しています。

開催日	開催場所	滋賀会講師
7月31日(日)	西部南部地区：林業普及センター	佐々木建雄
8月22日(月)	高島地区：ビラデスト今津	梶谷栄治、小西民人 高橋優
8月23日(火)	湖北地区：高山キャンプ場	下川茂、中川仁男 佐々木建雄
8月26日(金)	中部地区：高取山ふれあい公園	佐々木建雄、小西民人
8月30日(火)	湖北地区：きゃんせの森	下川茂、小西民人
9月2日(金)	甲賀地区：みなくちこどもの森	小西民人、高橋優
9月11日(日)	中部地区：河辺いきものの森	関澤友規子、高橋優 佐々木建雄

その中から、梶谷副会長と佐々木会長に「ビラデスト今津」と「河辺いきものの森」で開催した研修会を紹介していただきました。

「ビラデスト今津」研修会（8月22日 13:00-16:00）

～ 急な雨で樹木観察は木々の枝を屋内に持ち込んで ～

梶谷 栄治

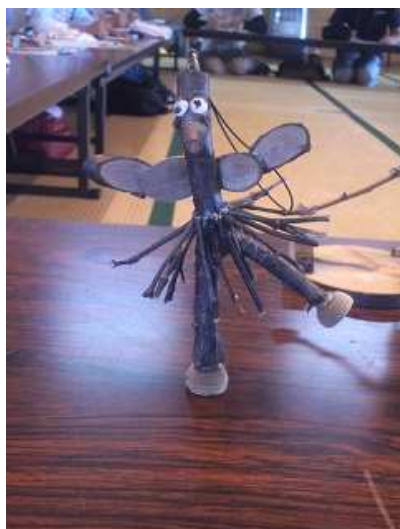
8月22日、ビラデスト今津での高島地区指導者研修会には、当会から小西、高橋、梶谷の3人が担当しました。受講者は、高島市内のマキノ・新旭・安曇川と大津から、五つの少年団から9人の参加がありました。

樹木観察は、降りそうな空を気にしながらキャンプエリアからセラピーコースを林内に入り、ダンドボロギク・ホオノキ・カナクギノキ・ヒメヤシャブシ等を観察し始めた辺りから雨が激



しくなり室内に引き上げてもらったが、折角だから今日のコースで観察する予定の約20種の枝・葉・実を室内に広げ、説明入りでいい観察会ができました。

クラフトでは、始めに自然素材でのクラフトの意義を話し、作品例を見せながらも、個人の自由な発想をで作ってもらう事を話し、作品作りに入りました。こちらから直接手を出さないように、また大切なことは受講者(団の指導者)が楽しく物づくりが出来ないと子供達に伝わりませんが、皆さん楽しくやっておられ、最後に全員の作品を見てまわりました。



「河辺いきものの森」研修会（9月11日 13:00-16:00）

佐々木 建雄

東近江市を流れる1級河川・愛知川沿いには、全国的にも珍しいと言われている平地の森が広がっています。それが「河辺いきものの森」。ここを会場として、今回緑の少年団地区別指導者研修会（河辺いきものの森会場）が実施されました。早いもので、滋賀会がこの取組みを受託して3年目になります。

日時：2016年9月11日 13:00～16:00、参加者：15名、 滋賀会からは、関澤、高橋、佐々木の3名が指導にあたりました。

この日のプログラムは、前半に森林観察、後半に木工クラフトという構成にしました。

まず、森林観察の前に、日本の森林の概要についてかいつまんで説明し、森林観察と合わせて、森林とそこに生育する生物についての理解が深まるよう試みました。

河辺いきものの森は、最低限の手入れはされていますが、それ以外は手つかずの状態が維持されていて、樹齢を重ねた大木も多く、森は鬱蒼としています。河辺にあつて湿度も高い状態ですので、この季節はヤブカの襲来に備えて、蚊取り線香は必携です。

散策路に従って、一通り主要な樹木観察を行った後、ここの森の「売り」の一つ、林冠トレイルを体

験しました。木道が樹冠の高さに設置してあり、観察者は樹冠を上から見るというわけです。

後半は木工クラフト製作です。

受講者にとって、森林観察はどちらかというと受け身ですが、クラフト作りとなると、自分で考え、自分の手を動かしての活動ですので、やはり能動性が発揮されます。



クラフト作り自体は、ほんの小さな取組みに過ぎませんが、最終的には、日用品、家具、建築など「木使い」にながって欲しいというのが真の狙いです。

指導者という大人なのですが、クラフト作りとなるとやはり童心に返るのでしょうか、出来た作品は子ども目線の無邪気さがうかがわれるものが多かったような気がします。



～「山を活かす、山を守る、山に暮らす交流会2016」～

下川 茂

本年度は、これまでに10年間続いた「森づくり交流会」事業から、新たに過疎化高齢化の現状にある森林山村の活性化に向けてネーミングを一新し、10月1日（土）に長浜市西浅井運動広場を会場として実施されました。

本事業には県内から40を超す団体が参加し、私たち滋賀森林インストラクター会もこれまで同様、(1)展示、(2)体験、(3)食品販売の3分野で出展しました。具体的には、(1)展示：これまでの滋賀森林イン



ストラクターの様々な活動状況を写真（A4サイズ、パウチ加工済み）で紹介する。（2）体験：「木の葉パウチづくり」をテント来訪者に体験してもらう。用意した多種類の樹木の葉を使ってオリジナルのネイチャークラフトを完成させる。台紙（A5サイズ）の裏には、滋賀森林インストラクター会の簡単な紹介文を載せて広報の一環とする。

（3）食品販売：滋賀会特製の「きのこ汁」の現地調理と販売をする。以上のことを佐々木会長以下8名の滋賀会会員が協力して取り組みました。



当日は早朝に雨も上がり、まずまずのお天気の下で盛況だった昨年度（豊公園来場者4,200名）に比べて来場者は五分の一以下の800名と少なかったものの、私たち滋賀会のテントを訪れる人はそれなりに多くおかげ様で「きのこ汁」（60杯）は完売し、「木の葉パウチづくり」も約40名の方がチャレンジし、各自が思い出に残る作品を仕上げました。また来訪者の中には、数こそ少なかったものの「写真展示コーナー」

を熱心に見学する姿が見られました。

会場出入り口に隣接したテントの位置が幸いしたのと中川会員お手製の「ドングリころころレーン」の集客効果が絶大で、年齢に関係なくゲームに興じる来訪者の楽しそうな顔が特に印象的でした。

昨年度までのアクセスの良い会場での開催とは異なり、今回は滋賀県北部の一般の県民にはあまり認知されていない旧西浅井町での開催で、当初から来場者数の減少は予想されていましたが、その状況にあって今回の滋賀会の取り組みはまずまずの成果が残せたように感じました。来年度の事業開催場所がどこになるかはわかりませんが、滋賀会会員諸氏のさらなる積極的な参加を願ってやみません。



今年度の定例研修会の概要と総括

研修担当 小西 民人

今年度も例年のように4度の県内の研修会を企画した。その概要を報告し、次年度に向けて総括したいと思う。氏名は敬称略。

○ 第1回研修会 箱館山ービラデスト今津（高島市）

下見を4月9日に行い、4月17日の本日に備えた。参加者は高橋、関澤、橋木、小西の4名。本日は雨天のため中止となった。したがって、下の写真はすべて下見時に撮ったもの。山のあちこちには写真のようにタムシバが白い花をつけ、その林床に早春を彩る綺麗な花たちが見られた。樹木としてはキンキマメザクラ、ハウチワカエデ、マルバマンサク、ダンコウバイ等が花をつけ、草本は、オオタチツボスミレやサワオグルマの花、オオイワカガミが蕾をつけていた。



タムシバ



トクワカソウ



サンインシロカネソウ



イワナシ



スミレサイシン



ミヤマカタバミ（紅）

○ 第2回研修会 山門湿原（長浜市西浅井地区）

下見は5月29日、参加者は関澤、橋木、小西の3名。6月5日の本日は梶谷、小西の2名。

下見は、ビジターセンターである「森の楽舎(まなびや)」から沢道を経て時計回りに→山門湿原側道→四季の森→アカガシの森→ユキバタツバキ群生地→尾根道→森の楽舎の順に回った。

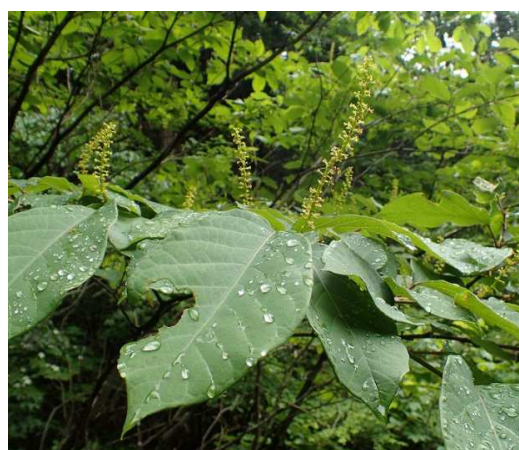
本日は、同じく時計回りに回ったのだが、四季の森コースに入らず、高度を上げてブナの森コースを巡った。山門湿原側道→ヒノキの森→ササ再生→ブナの森→中窓(展望)→守護岩→大窓(展望)→アカガシの森、以下下見のコースへ。山門湿原内は踏み込むことができないので、その中に生育する貴重な湿原植物は森の楽舎横の小さな湿地で見ることになる。

この地の特徴は、暖温帯のアカガシが群生して生育する北限に位置し、かつ冷温帯のブナとそれらが混生している特異な植生にある。また、暖温帯のヤブツバキと多雪地に適応したユキツバキの中間種ユキバタツバキの群生も見られる（中にはユキツバキと思われるものも）。

湿原の方は、4万年前には誕生していた高層湿原（低層、中間も含む）で、氷河期の遺存植物であるミツガシワをはじめ、トキソウ、サワラン、サギソウ、ヒツジグサ、クサレダマ、サワギキョウ、カキラン、モウセンゴケ等貴重な植物が多く見られる。湿原以外ではササユリも見られるが鹿の食害が酷く、その対策に傾注とのこと。以下、下見および本日で見られた植物等を樹木を中心に紹介する。



ヤマボウシ



シラキ



コアジサイ



アカシデ果穂



ケケンボナシ



ネジキ



サクラバハンノキ



リュウキュウマメガキ



クロミノニシゴリ



ナツハゼ



ササユリ（網で保護されている）



ブナ



アカガシ



山の守り神 守護岩

○ 第3回研修会 笹又一伊吹山（岐阜県揖斐川町、米原市）

下見は9月3日、参加者は佐々木、高橋、関澤、橋木、小野(京都)、高森・吉野(一般)、小西の8名。本日は9月11日で、参加者は梶谷夫妻、平田夫妻、篠部(京都)、水口(京都)、小西の7名。

伊吹山付近は母岩の石灰岩の影響で貧栄養の土壤であり、樹木の生育に適さない場所が多く、丈の高い樹木が少ない。したがって研修内容が草本中心とならざるを得ない。見られる樹木はカエデ属のオオイタヤメイゲツが多く、一部ブナやシナノキ、ハシドイ、マユミ、また、低木としてカンボクやシモツケ類、コバノクロウメモドキ、ヤマアジサイ、ヒメウツギ、ノリウツギ、ザリコミ等が見られ

る。草本も低木も石灰岩を好む植物が多いのがこの地の特徴である。

研修の行程はドライブウェイ終点から 1km ほど手前にある伊吹北尾根の入口に車を停め、そこから静馬ヶ原に下り、トラバース道、笹又へ下山道、樹林帯に少し入ってツルガシワを確認、その後引き返してトラバース道の途中で昼食。昼食後は車まで戻り、車で 8 合目駐車場へ、伊吹山の周回コースを西回りで頂上、中央コースを駐車場まで下山の順に回った。以下、確認した初秋の植物の一部を写真で紹介する。(動物含む)



ナギナタコウジュ



イブキコゴメグサ



イブキトリカブト



アケボノソウ



クロマルハナバチ



イブキレイジンソウ



イブキノキケンショウマ



マネキグサ



ハマエノコロ?



カンボク



ヒナノキンチャク



ツルガシワの実と花

○ 第 4 回研修会 音羽山（大津市・京都市）

11 月 19 日予定の下見が雨天により 11 月 23 日に変更。参加者高橋、橋木、小西の 3 名。

11 月 27 日の本日も雨天により 12 月 4 日に変更。参加者下川、平田、関澤、山口親子、小西の 6 名。

この内容については平田さんから詳しい報告をいただいたので、そちらを参照されたい。

今年度の総括および提案

同じ場所で季節を変えて 2 年間研修を続けるという今までのパターンを変えて、今年度は県内の違った場所を季節毎に選択し、研修を行うこととした。今まで行っていないところの情報も得られるし、研修地近くの会員の参加やその人の知見も得られ、参加者も増えるものと考えた。結果としては、伊吹山での研修では京都会や一般の参加者もあり幾人かは増えたが、滋賀会の会員のみでは多くて 5 名で、あまり変化がなかった。第 4 回研修会についてはホームページを利用して計画を公表し、一般募集をかけたが、これも不発に終わった。生活や仕事と、研修会とを天秤にかけると、研修会の魅力が断然低いということなんだろうと総括する。内容を聞けば何を差し置いても参加したくなる、魅力ある研修会をどう実現するか。次の研修担当にそのあたりのよい企画をお願いしたい。

参加者が少ない結果、研修担当が計画をつくり、下見をし、研修会を実施し、時には報告まで提出するという、誰のための研修会か判然としない状況に陥っているというのが現状。現状打破はいかに。

さて、現在 2 年に 1 度を原則に宿泊を伴う県外研修を行っているが、近畿圏内には日帰りで研修できる研修候補地が結構あるように思う。そこを探して、日帰りで県外研修を実施してもよいのではないだろうか。具体的には、現在廃止が取り沙汰されている大阪市大理学部附属植物園が第一の候補。園内に日本産の樹木 450 種ほどが見られ、日本各地を代表する森林タイプも 11 類型造成されている大変貴重な植物園。多様な樹木に短時間に会えるので、樹木研修には最適と思う。ここに、早春と晩秋を含む四季折々に出かけるというのも次年度以降の研修としてはいいように思うのだが。

それ以外には、奈良公園・春日山原始林から若草山に抜けるコース、京都府立植物園などが頭に浮かぶ。他にもあるだろうが、公共の交通機関で行けるよい研修地の提案をお願いしたい。

県外研修会報告－長野県拇池高原－

高橋 優

- 実施日 2016 年 7 月 16 日（土）～17 日（日）
- 場 所 長野県小谷村 拇池高原
- 研修焦点 1 日目 樹木の垂直分布（拇池パノラマウェイ、拇の森遊歩道、自然園駅周辺）
2 日目 湿原周辺の自然（拇池自然園）
- 参加者 佐々木会長、梶谷副会長、小西民人、下川ご夫妻、平田ご夫妻、満井千鶴人、
関澤友規子、橋本啓子、吉井純子、浦谷(栗東やまのこ指導員)、
高森(長浜やまのこ指導員)、橋本(長浜やまのこサポーター)、高橋優、
以上 15 名（会員外の方が 5 名）

■ 7 月 16 日（1 日目）曇天

大津駅に集合、チャーターしたマイクロバスで 8:00 に出発。名神、中央、長野自動車道を乗り継ぎ、国道 148、147 号線を走り抜いて、16:00 前に小谷村に到着した。標高 839m の拇池高原駅からゴンドラリフトで標高 1582m の拇の森駅まで一気に登り、さらにロープウェイで標高 1829m の拇池自然園駅へ。そこからサルオガセが垂れ下がる拇などの樹木と笹原の中を抜ける坂道を 400m 歩くと、宿泊の拇池ビュッテ。標高 1860m、拇池自然園の入口に位置している。17:00 過ぎにチェックインし、夕食までの時間ビュッテ周辺の自然園木道を散策、自然観察で時を過ごした。



拇池ビュッテ



サルオガセの破片

サルオガセが垂れ下がる樹

1 日目はどんよりとした曇り空。リフトやロープウェイから山裾に雲がかかっているのが見えました。高度が上がるにつれて、景観が変わり、リフトからロープウェイの乗り換えの道筋（拇の森遊歩道）でも様々な植物を観察することができた。ここではほんの一部を紹介する。



タテヤマウツボグサ



オオシラビソ

■ 7月17日（2日目）雨天

2日目は残念ながら雨。それもかなりの雨量で、参加者全員レインウェアを装着し傘をさして 7:00 にビュッテを出発。

拇池自然園内を「ミズバショウ湿原」（標高 1860m）「ワタスゲ湿原」（同 1870m）「浮島湿原」（同 1920m）「展望湿原」（同 2010m）と巡り、日本有数の高層湿原を観察することができた。

ものの本によると、「植生学でいう湿原は低温・過湿のために枯死したミズゴケが分解されず泥炭となり、水を含んで過湿となった場所をいい、「高層湿原」とは、泥炭が多量に蓄積されて周囲よりも高くなったために地下水では涵養されず、雨水のみで維持されている貧栄養な湿原を指す。」とのこと。

拇池自然園の湿原は白馬乗鞍岳の火山活動に伴い生まれた。まず火山活動により階段状の断層ができ、平坦面を作った。その平坦面の凹地に池ができミズゴケやワタスゲなどが育ち、これらの植物は枯れても腐ることなく、寒冷な気象条件のもとで泥炭化し、その上に新たな植生が育まれた。数万年という長い年月をかけて現在の拇池湿原になったようだ。



オオヒョウタンボク



ツマトリソウ



キヌガサソウ



ワタスゲ湿原の入口にある風穴。火山活動の名残という。昨冬の雪が残っており、吹き出す風は0度Cに近い冷風。

ワタスゲ湿原のワタスゲは雨に濡れて、消毒液に浸った脱脂綿のようになっていた。



ワタスゲ



オオバタケシマラン



クロトウヒレン



ミソガワソウ



オオバノミゾホウズキ



ハクサンフウロ



オオレイジンソウ



ニッコウキスゲの群生は満開状態。そこかしこにみられた。



浮島湿原では、イブキトラノオの群生、オオシラビソの紫色の球果が見られた。



最終目的地の展望湿原に到着したが、雨がひどくなり展望はゼロ。

湿原散策は午前中で終了、ビュッテに戻ったら、皆さんずぶ濡れ、お疲れ様。しかし、貴重な体験に快い疲れでした。昼食後帰路につきましたが、皮肉にも雨が上がり時には太

陽も顔を出すような天候のもと大津へ帰ることができました。

この報告の写真の多くは、関澤さんの提供です。ありがとうございました。(高橋)

「新規会員の紹介」

新入会員の吉井純子さんを紹介します。

滋賀会に四月から入られて、梅池の県外研修会や定例研修会に参加していただいています。前回の会報 18 号で紹介しなくてはならなかったのですが、編集部の怠慢で遅れてしまいました。申し訳ありません。

吉井さんから素敵な自己紹介文が届いています。下に掲載します。森林インストラクターの活動を通じて、自然と触れ合う機会と交流の輪が広がることを祈っています。

＜紹介文＞

私は森林インストラクターではありませんが、去年から何度か皆さんと森をご一緒させて貰っています。お陰で森は、私の中でますます、大きく枝葉を伸ばして成長中です。

自然は私に生き方を教えてくれる師匠です。地球は、あらゆる生きものの命で繋がり、循環し、命を育んでいる。そして地球も生きものたちも、その事に気付いている… 自然とともに在るとき、私はしみじみとそう感じます。

“地球は命の宝箱” 美しくも逞しい沢山の命の輝きの中で子どもたちと触れ愛、子どもたちと生き続けたい… そう願っています

編集後記

会報第 19 号（2016 年度上半期号）をお届けします。昨年 の 17 号と同じ 12 月 26 日、年末ぎりぎりになってしまいました。

今号は今年実施した研修会の報告と総括が主となった内容となっています。小西さんに今年度の研修会を総まとめしていただいています。また、来年度へ向けての提案もされています。会員の皆さんの忌憚のないご意見やご提案をお願いします。

もうすぐに年度末を迎えます。事業報告や決算、来年度の事業計画、役員の改選など忙しい時期になります。会員のみなさまのご協力をよろしくお願いします。

ではみなさま、良いお年をお迎えください。

（高橋）